

ロボコン活動について

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(通称:高専ロボコン)は今年で32回目を迎えます。今年度は各学科から有志約30人が集まり、毎年変わるルールに対し試行錯誤を繰り返しながら日々ロボットを開発しています。

松江高専は9年連続を含む20回の全国大会出場校として全国に知られる存在となっています。また、2004年に全国大会初優勝し、アイデア賞や特別賞など多くの賞を受賞しました。

昨年、松江で開催された中国地区大会では準優勝を果たすも全国大会に出場できず悔しい思いをしました。今年も国技館で開催される全国大会出場に向け頑張っています。卒業生の皆さん応援よろしくをお願いします。

様に、ご協力ご支援いただきました。さらに、当日会場には多数の卒業生の方が応援に来られました。同窓会からは毎年ロボットコンテストへの補助を頂き、この場をお借りしお申し上げます。今後とも、母校の学生の活躍をお伝えしたいと思います。

(競技委員長:23期卒業生 電気情報工学科教授 箕田 充志)



ロボットコンテスト中国大会開催報告

2018年には、松江高専が主幹で鹿島体育館においてロボットコンテスト中国大会が開催されました。競技・会場運営では多くの皆

プログラミングコンテスト

全国高専プログラミングコンテスト(プロコン)には主に情報工学科の学生が毎年参加しています。プロコンには競技部門、課題部門、自由部門があり、競技部門は強いAIを作成して勝敗を決める戦い(ロボコンのプログラミング版)、課題部門は出された課題に沿っ

たプログラム作品を審査員が評価するコンテスト、自由部門は自由で作ったプログラム作品を審査員が評価するコンテストです。競技部門はプログラミングの得意な学生が集まり、毎年固定メンバーで参加しており、近年は2年に1回のペースで特別賞(3位相当)を獲得するなど強豪として知られています。毎回優勝出来るレベルのAIを作成しているので、久しぶりの優勝を果たしたいところです。自由部門と課題部門は校内予選を行い、20チーム程度から選ばれた4チームがプロコンに応募します。情報工学科2,3年生は授業の一環として必ず校内予選に応募しています。近年は応募数が増え全国プロコンに出場するのも大変ですが、2017年度は課題部門で特別賞、2016年度はCygames賞(副賞が何と50万円相当のPCを3台!)を獲得するなど健闘しています。2019年度は久しぶりにプロコン全3部門への出場が決まっています。ぜひご期待下さい!

(情報工学科准教授 橋本 剛)



2017年度プロコン競技部門決勝戦

編集後記

本会報も9号をお届けすることになりました。本校は創立50周年を過ぎ、地域に根差しつつ、教育理念の「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」を輩出しています。

本同窓会も設立50周年を迎え、今年記念行事を開催します。同窓会理事会では、これに向けて実行委員会を立ち上げて検討を重ね、記念式典・祝賀会の概要を今回紹介しました。是非ともご参加いただきますようお願いいたします。

また今回は、最も卒業生の多いとされる首都圏・関東地区において「松江高専同窓会関東支部」が立ち上げられ、その活動を紹介いたします。また、高専連合会が主催する全国レベルのコンテスト等にチャレンジしている方にその内容を紹介して頂きました。今後の会の発展と活躍を祈念します。

松江工業高等専門学校

同窓会 会報

第9号

2019.8.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内
TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: m-soumu@matsue-ct.jp

<http://www2.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

いよいよ同窓会設立50周年

松江工業高等専門学校同窓会 会長 陶山 知政 (24期・土木)



平成から令和へ新たな時代へと変わった今年、昭和の時代に第1期生によって設立された本校同窓会もついに50周年を迎えました。

半世紀という長い歴史を刻み、約8,000人の会員を抱えるまでの大きな組織になったことを改めて感慨深く感じているところです。

です。

これもひとえに、本会の運営に関わってこられた歴代会長をはじめとする役員の皆様、そして何よりもOB教員として母校に奉職され、熱心に本同窓会活動を支えてくださった多くの方々のご尽力のおかげであると、心より感謝申し上げます。

さて、50周年を迎えるにあたっては、昨年から理事会の構成員を中心に記念事業の内容等について会合を重ね、会員あるいは母校にとって何をすべきかを議論してきたところです。

記念事業の第1弾としては、昨年1月に母校の発展に貢献したい

との思いから、十数年ぶりにマイクロバスの購入支援を行いました。これは在校の後輩たちが、課外授業や部活動にこのマイクロバスを使い、あらゆる場面で活躍し松江高専の名前を轟かせてくれる、その一助になることができればとの思いを込めて行ったところです。

そして、いよいよ11月3日(日・祝)には「同窓会設立50周年記念事業(式典・祝賀会)」を行うことを決定いたしました。これまでも節目の年には祝賀会等を開催してきておりますが、この度もまた世代を超えて多くの会員の方々が集まって、相互に交流を深めていただける貴重な機会です。主催者として心より皆様のご参加をお待ちしておりますので、是非ともお越しいただきますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、本同窓会は会員相互のつながりがあってこそ初めて成り立つものです。少しでも本同窓会が会員の皆様にとって身近な存在に感じていただけるよう一層努めてまいります。今後の活動にご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。ましてご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

松江工業高等専門学校 校長 平山 けい



新しい令和の時代を迎え、松江工業高等専門学校同窓会は、今年50周年を迎えます。誠にありがとうございます。この50年間松江高専の同窓会を支え、事務局を代々運営されてこられた皆様方に敬意を表します。また、日頃松江高専同窓会の皆様から頂く母校へのご支援とご協力に教職員を代表して心より感謝申し上げます。

です。

戦後の技術者が不足していた高度経済成長期に設立された高専の教育制度は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」と言う技術者育成を目的とした実践的技術者養成機関として発展し、その教育成果は高い評価を受けてきました。松江高専も昭和・平成と2つの時代を日本の成長とともに駆け抜けました。新しい令和の時代に突入り、高専教育に求められる使命も更に大きく変化しつつあります。教育機関として、少子化に対応したスリム化も必要になってきています。全国でも人口減少の進んでいる島根

県に所在する本校では、今後10年、20年先を見据えた対応を考えていかなければいけない難しい時を迎えています。このような状況の中、同窓会の皆様方の多方面に渡るご支援が必要不可欠です。今後とも温かなご支援とご協力をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

さて、とても明るい話題があります。老朽化の進んでいる図書館の改修が今年度決定しており、後期より工事に入ります。図書館改修に際しては、同窓会からのご寄附をいただけること、大変有り難い大きなご支援に深く御礼申し上げます。新しい図書館には保健室・学生相談室を併設します。今までの図書館と異なりラーニングコモンズを取り入れた、明るい学びあいの施設となる予定です。年度末には同窓会の皆様方にも新しい施設をお披露目できること存じます。どうぞご期待ください。

「令和」諸説ありますが、世の中を平和にさせる、世界が調和され、平和が永遠に達成されるというメッセージが込められていること、平和で穏やかな時代でありますように衷心より願います。

松江高専同窓会関東支部の活動について

母校のある島根県を遠く離れて関東で活躍している松江高専卒業生同士の親睦を深め、またこの場から新たな取り組み等が生まれることを期待して、2016年から松江高専同窓会関東支部を「関東直野会」と名付けて設立し、3年が過ぎました。毎年1回秋頃に交流イベントを開催しており、これまでも毎回50人から100人程度、幅広い年代の方々にご参加いただきとても盛況でした。

さらにここからスピノフした企画も様々に立ち上がりつつあります。松江高専を卒業して新たに関東に来られた方々を招いた歓迎会を開催したり、趣味の集まりと一緒に参加したり、フリーランスで活躍している方々同士の仕事につながる話が進んだり、とてもよい循環になってきています。

関東直野会の活動状況は本会のページで公開しています。またメーリングリストやFacebookページでは、さらに詳しい活動報告やイベントの案内などを行っています。こちらは招待制となっていますので、ご覧になりたい方は下記の連絡先にお気軽にご連絡ください。

本会Webページ: <http://www.matsue-ct.tokyo/>

メーリングリスト・Facebookページ参加申し込み連絡先: info@matsue-ct.tokyo 宛にメールでご連絡ください。

現在本会は20歳代の若いメンバーを中心に6人で運営しています。また、本会に貢献したいという方も募集していますので、松江高専卒業生のつながりを広げたいという方はぜひ積極的に上記連絡先にご連絡いただければと思います。

松江高専同窓会関東支部(関東直野会)会長 浅野 智之(10期・情報)



会員の声



山陰クボタ水道用材(株) 石橋 司朗(8期・機械/旧姓小笠原)

卒業して40年余り、定年後は役員として会社に残っています。会社には17人の松江高専卒業生がいますが、高田先生が退官された平成28年以降は入社がありません。社員構成では工事業部が86人ですから2割が高専卒となっています。学科別では機械8人、生産機械1人、土木6人、環境建設2人です。

3年前に私と同期の錦織君と今岡君が公務員を退職して入社したので、8期生が3人となりました。私たちは工事営業や総合管理が主な仕事です。同期生はたのもしくて心強く、客観的にみた会社感を厳しく語ってくれます。

会社の工種は、水道施設工事、機械器具設置工事、管工事(空気調和設備、給排水衛生設備)であり、学んだことが技術に生かせる職場です。

「松江高専卒業生の結束は独特で強いものを感じる」とよく聞きますが、それが何かは未だにわかりません。私も客先や同業者で高専卒業生に会う機会がありますが、高専卒と聞いただけで話が弾み、親しみを感じるから不思議です。この感覚は社内でも大切にしています。派閥をつくるわけではなく、高専卒業生としての自覚、プライドをもって仕事に接しているから、同じ感覚を共有できる気がします。

学生時代を振り返ると、部活はバレーボール部で、入学した年は強かったけれどその後はふるいませんでした。結果に関わらず、練習のレベルと意識、モチベーションは高くもってしようと、がむしゃらだった気がします。

学業はやっと卒業できる程度でしたが、授業は楽しく受けました。個性豊かな先生が多く、なんとも言えない語り口調で、それが真剣であるからよけいに印象深く記憶に残っています。松江高専卒業生で本当に良かったと思います。

同窓会設立50周年記念式典・祝賀会の出席者募集について

松江工業高等専門学校同窓会は今年設立50周年を迎え、会員の皆様に記念事業と記念式典・祝賀会の概要をご紹介します。

記念事業は、平成30年1月28日に学生の教育活動支援として、後援会と共にマイクロバスを購入し、学校に寄贈しました。また念願であった同窓会室(コーナー)の新設については、今年度の学校図書館の改修にあわせて同館内に設置を検討することとなりました。

記念式典・祝賀会は後述のとおりで、記念講演では、本校とも関係が深かった村下で国選定保存技術保持者の木原 明氏を講師にお迎えします。祝賀会は、本校の紹介や卒業生有志によるライブ演奏など楽しい内容を考えています。

同窓会員の皆様には、できるだけ多くの方にご出席いただき、会員相互の交流を深めるとともに、同窓会の発展を見据える機会となればと思います。

同窓会副会長 糸原 保(19期・土木)

記念式典・祝賀会

1. 日時 令和元年11月3日(日・祝) 15時から18時30分(受付:14時から)
2. 場所 松江エクセルホテル東急(松江駅前)朝日町590 TEL0852-27-0109
3. 会費 8,000円(第3部出席者のみ・当日会場でお支払いください)
4. 内容
 - 【第1部】 記念式典 15:00~15:20
感謝状・50周年記念品目録贈呈等
 - 【第2部】 記念講演 15:20~16:20
講師 国選定保存技術保持者 日刀保たたら村下 木原 明氏
演題 「たたら製鉄の技と精神(こころ)~誠実は美鋼を生む~」
 - 【第3部】 祝賀会 16:30~18:30



新しいマイクロバスの寄贈

5. 申込み方法

URLのフォームからお申込みください。会場の都合上、先着150名に限らせていただきます。

締め切りは令和元年9月20日(金)です。

URL <https://www2.matsue-ct.jp/reunion50/>

なお、URLでの申し込みが困難な方は、FAXでも受け付けます。出席区分として「全て」、「第1部、第2部のみ」、「第3部のみ」を記載し、氏名、卒業学科、卒業年(西暦)、住所、連絡先(電話・メールアドレス)を記入してください。

松江工業高等専門学校同窓会事務局宛 Fax 0852-36-5290

6. 問い合わせ先

以下のメールアドレスに問い合わせください。

doso.matsue50@gmail.com

コンテスト・コンペティションへの出場

デザインコンペティション

デザコンは、構造デザイン、空間デザコン、創造デザイン、AMデザイン、プレデザコンの計5つの部門で構成されており、松江高専では主に構造デザイン部門に参加しています。参加する学生の多くは、環境・建設(旧土木)工学科所属で、少数ですが他学科の学生も参加しています。

構造デザイン部門では、課題に沿った橋の模型を作製し、その耐久性やデザイン性を競います。具体的には、荷重装置に橋を設置し、荷重を加えることによってその耐久力を競い合っています。また、同じ荷重でも自重の軽い方が高得点になるため、強く、軽く、美しい構造の探索が必要となります。

デザコンの競技内容は毎年変更されます。2015年度から使用材料が木から銅線に変更され、2017年度以降は従来の重りを吊るすこ

とによる集中荷重に加え、砲丸を転がすことによる移動荷重が追加され難易度が上がりました。今年度からは使用材料が大会史上初の紙となり、非常に難しい課題となりましたが、私たちは構造解析や荷重試験を繰り返し、より良い作品を作るということを行っています。12月の全国デザコンに向けて頑張りますので、応援をよろしくお願いいたします。



(環境・建設工学科5年 伊藤 大悟)